

郷土愛通信

平成30年5月31日
第6号
郷土愛プロジェクト



第5回キャリア教育産学官交流会in飯島 2018.5.22



300名
盛会御礼!



* 産学官の交流は、普段の交流とは違った観点での発想が芽生え、新たなアイデアづくりに有効！でした。
* 同じ世代のパワフルな木村さんの姿に感銘を受けました。中学生にもこの「一歩」を踏み出す気持ちを見つけさせてあげたいと強く感じました。子どもは子どもたましの評価や称賛ではなく、地域や身近な大人の本音であり生の「ありがとう」が返ってくるのが一番のキャリア教育だと思います。
* PTA主催でプロジェクトが立ち上がったことに驚きました。この中で郷土の歴史、郷土愛が深まることと思います。大人がやってみせることの大切さを感じます。
* 地域にはそれぞれ人に誇ることでできる歴史や文化があることを改めて感じました。
* キャリアノートを作成することで、仕事観・人生観が豊かになり、人としての成長ができる小6から中1の成長に驚きました。地域で人づくりをしていくことの大切さを教えていただいた。
* 上伊那の地域で取り組めるキャリア教育に企業として何ができるのか考えたいと思う。特に職業体験の内容を改めて見直し考え直したい。
* 高校教育では進路や進学がダイレクトに絡んでくるので、将来を鑑みての生徒の身に迫る取り組みができていないと感じた。しかしそれは高校だけではなかなか難しいので、中高連携した取り組みが必要と感じた。
* キャリアノートについて学ばせてもらいました。中3の担任なので、これから学年や学級でどんな活動ができるかを考えるきっかけをもらいました。「活動することに意味付けする」ことが、いかに重要か実感することができました。
* 生きることの意味、生きていることを実感できる授業実践に学ぶことができました。認知症講座は、子どもたちが学びたいと思ったからこそ実現できたと思いました。学ぶことの目的がはっきりしていることが、主体的な学びとなる原点であることを学びました。



5月22日は「キャリア教育産学官交流会」で大変お世話になりました。お会いできた皆様、一人一人から地域やキャリア教育への熱い思いをお聞かせいただきましたことに改めて感謝申し上げます。誠実で前向きな皆様の姿勢に私の方が元気をいただいて帰京できましたことにも御礼申し上げなければなりません。

このような魂ある組織になるまでには様々なご苦労があったことと存じますが、向山会長を先頭に「これからの伊那谷について、上伊那の産業界、教育界、行政、家庭、地域が深く結びつき、互いに知恵を出し考え合いながら、よりよいふるさとの未来を担う人材を育成したい」という真摯な思いが貫かれ、それが参加者全員に共有された素晴らしい一日だったと思います。

我が国の閉塞感ある地域社会の再構築や教育改革は地方からと、私は本気で考えております。伊那谷の取組が多くの自治体の希望の轍になることを確信して、御礼と応援のメッセージとさせていただきます。

文部科学省教科調査官 長田 徹



*長田先生のお話は心に残りました。日々キャリア教育だと思っていますが、もっと角度付けをして地域と共に生きることの素晴らしさを体験させて、人生に意義づけをしていくことを増やしていきたいと思えます。特に地域の「凄い大人」に出会わせたい。具体的にやる気が出たことが本当にうれしいです。

*「高大接続改革」の波で高校への変革が求められています。高校だけでは難しい。小中高で相互に何をしているかを知り、更に産官の思いや協力も共有して、本当に地域ぐるみで子どもたちを育てていかなければいけないと思えます。

*学習意欲を促すことばがけとは逆の言葉がけをしている自分が恥ずかしくなりました。学びを将来へつなぐということも考えさせられました。意図をもった日常的な言葉がけができるようにしていきたいと思えます。

*長田先生のお話は分かりやすく、ぐっとくる内容で、自分がどう切り開くべきかの方向性をいただいた思いです。この会に参加する時「楽しんできて」と声をかけられました。その方は過去4回参会した方です。『深く楽しみ感(観)』を覚えました。



ご参会のみなさま、ご支援・ご協力ありがとうございました。御礼申し上げます。
「いつやるの?」「今でしょ!」がしばらく前、流行り言葉でしたが、この感動が熱い内に、自ら今動き出しましょう! ※参加申込や当日の運営面での不手際がございましたことお詫び申し上げます。

また 来年必ずお会いしましょう



広報かみいなに特集されます!
お楽しみに!